



AI 業務 OS

この仕事は、 最後まで任せた。

会議のあとから、入金の確認まで。

エージェントと人が、同じ画面で回します。

サービスのご案内

2026年10月版



AIを1体足すより、会社の流れごとと任せる。

道具ごとにAIを足しても、つなぎ目には人が残ります。マカセタは、仕事の流れそのものを単位にします。

道具にAIを足す

単位	1つの作業
人の役目	AIを使う人
導入	いまの道具につなぐ
残るもの	道具と道具の間の仕事

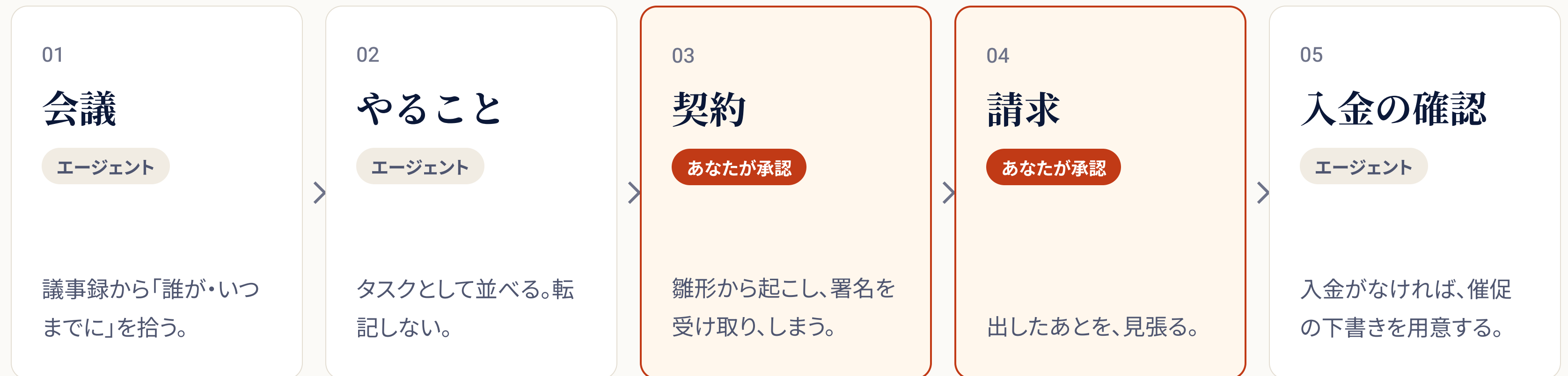
マカセタ

単位	会社の仕事の流れ
人の役目	承認と、判断と、例外
導入	仕事を見て、流れを描き、移す
働く場所	人とエージェントが、同じ画面

流れ

流れを、最後までつなぐ。

エージェントが次へ進め、人が決めるところだけで止まります。



エージェント

が進める

あなたが承認

のところでだけ止まる

AIは下書きまで。決めるのは、人。

承認する

送信・支払い・締結は、人が承認するまで実行されません。

迷ったら、止める

判断できないものは、理由を付けて戻します。黙って進めません。

記録が残る

秘匿情報の表示と書き出しは、監査ログに残します。

17 本

定期処理

26 個

エージェントの道具

387 件

人の入力なしで蓄積した議事録

マカセタは Gugen の社内システムとして生まれ、いまも社内の仕事がこの画面で回っています。数字は Gugen 社内での運用実測 (2026年8月時点)。

進め方

パッケージを渡すのではなく、 御社の中に組み立てる。

受託開発のように会社ごとに作り、SaaSのように使いながら育てる。その間にある形です。

STEP 01

業務を棚卸しする

2週間・無料

エンジニア（FDE）が現場に入り、手が回っていない仕事を洗い出して、どこから任せるかを決めます。

STEP 02

会社ごとに実装する

お見積り

御社の業務の流れに合わせて、マカセタのエージェントと画面を組み立てます。

STEP 03

社内で回せる形で渡す

運用・改善

エージェントが進め、人が承認する。運用を社内で回せるようになるまで伴走します。

費用は、棚卸しのあと実装する範囲が決まってから、会社ごとにお見積りします。

最後は、御社の人回す。

よくある受託開発

作るもの	仕様書どおりのシステム
------	-------------

納品のあと	直すたびに発注が要る
-------	------------

社内に残るもの	使い方の説明書
---------	---------

マカセタ

作るもの	御社の仕事の流れそのもの
------	--------------

納品のあと	流れの調整を社内で行える
-------	--------------

社内に残るもの	回し方と、育つ AI への指示
---------	-----------------

カスタマイズではなく、仕事を移す。

きれいな会社から始めなくていい。最初に、導入チームが仕事を見に行きます。

01

見る

会議、メール、表計算、人の作業。いま何に時間がかかっているか。

02

移す

繰り返しの仕事から、エージェントへ。設定とつなぎ込みは導入チームが。

03

回す

エージェントが進め、人が承認する。週に1回、一緒に調整する。

04

測って直す

始める前と同じ測り方で測る。続けるかは、そのあとで。



朝は「今日」の画面を開いて、承認するだけ。

マカセタの実際の画面(中身は差し替え)

相談する

まず、 1つの流れから。

どの仕事から任せるかが決まっていなくても構いません。
手が回っていない仕事を1つ選び、最後まで任せられるかを確認めます。

Webサイト makaseta.jp

メール info@gugenlab.com

運営 Gugen株式会社(東京都千代田区)

